

## 研修報告書 No 36

地域医療に行くにあたり、せっかくの機会であるので行ったことのない土地に行ってみようと思い高知県を選択しました。高知県だけでなく四国にも来たことがなかったので、どういう土地柄かもまったく想像が付きませんでした。

空港から病院へ向かうとき、高知大学があるけれども、市街地に残る医師はいてもなかなか県内にずっと残っている医師が少ないという状況を教えていただきながら、市街地を離れどンドン山の中を進み、地域医療に来たのだと実感していました。

実際に〇〇病院に来て最初に驚いたことは、医師の数の少なさに比べ、想像以上に患者さんの人数が多いということでした。外来だけでなく、急性期・慢性期と 2 つの階にわたる入院病棟をみながら、訪問診療に行ったり、さらに超音波検査や上部内視鏡検査、透視下での EF チューブ交換など多くの手技も行ったり、普段大学病院ではチームで分担しているものなので、一人の医師が替えのきかない存在であると感じました。

普段電子カルテになれている自分にとって、フィルムでみるレントゲンや CT は初めてでした。特に CT はスクロールできず、スライスの幅も大きいので、初めは血管の走行や立体感がわかりにくく苦勞しました。

普段なら、何か異常がある可能性があれば、すぐに血液検査やレントゲンだけでなく、CT も簡単にとっていたのですが、地域では検査をするにも人数が少なかったり、結果が出るまでに少し時間もかかったり、結果が出てもすぐに見て対応する時間の余裕も少なかったりと、普段置かれていた環境がいかに恵まれているかを痛感しました。

普段機械ばかりに頼っていて、超音波検査の有用性を知らなかったことにも気づかされました。検査する側の力量によって結果の質が変化するため、普段自分でする機会が少なかったのですが、地域に来て、「検査室の人がするのを見て、教えていただき、実際にやってみて、そしてもう 1 度教科書を見ながら教えていただく」という風に指導していただき、以前より超音波検査に抵抗がなくなり、理解できるようになりました。自分が思っていたより多くの情報を得られることを知り、簡易性も含め、超音波検査の大切さを学ぶことができました。限られた時間、人数で効率のいい検査を行う大切さを知りました。

△△診療所では、〇〇病院よりさらに山と川に囲まれた自然のなかで 3 日間研修することができました。振動病の患者さんが多くリハビリに来ていて、今まで教科書で読んでいてもなじみのなかった病気であったため、地域に来てこんなにも多くの方が振動病の影響を受けているのだと知りました。地域に根差した医療をすることの重要性を学ぶことができました。

〇〇病院でも△△診療所でも訪問診療に参加させていただきました。農業をしている方が多い影響もあるのか、普段働いている病院の患者様よりご高齢でも若く元気に感じる方が多い印象でした。一方、ご高齢でも独居されている方も多く、ちょっとしたことがきっかけになって通院できなくなることが多いことも知りました。今後さらに高齢化が進んでい

くことが予想される地域において、訪問診療の重要性はますます増していくのだと感じました。

今回地域医療に携わる機会をいただき、新たな視点で医療に向き合えるようになりました。「もっと何年か経って、自分がある程度色々なことができるようになって、色々なことを経験したあとに、地位や環境などにとらわれず何か自分にもっとできることはないか、今回気づいた以上に新たな地域医療の魅力を感じられたとき、〇〇病院のことを思い出してくれるとうれしいな」と言ってくださった検査室の方の言葉が印象に残っています。地域の人々とふれあって感じた暖かさは格別で、この経験をこれからの人生に生かせるよう、まずはがむしゃらに学んでいきたいと思えます。